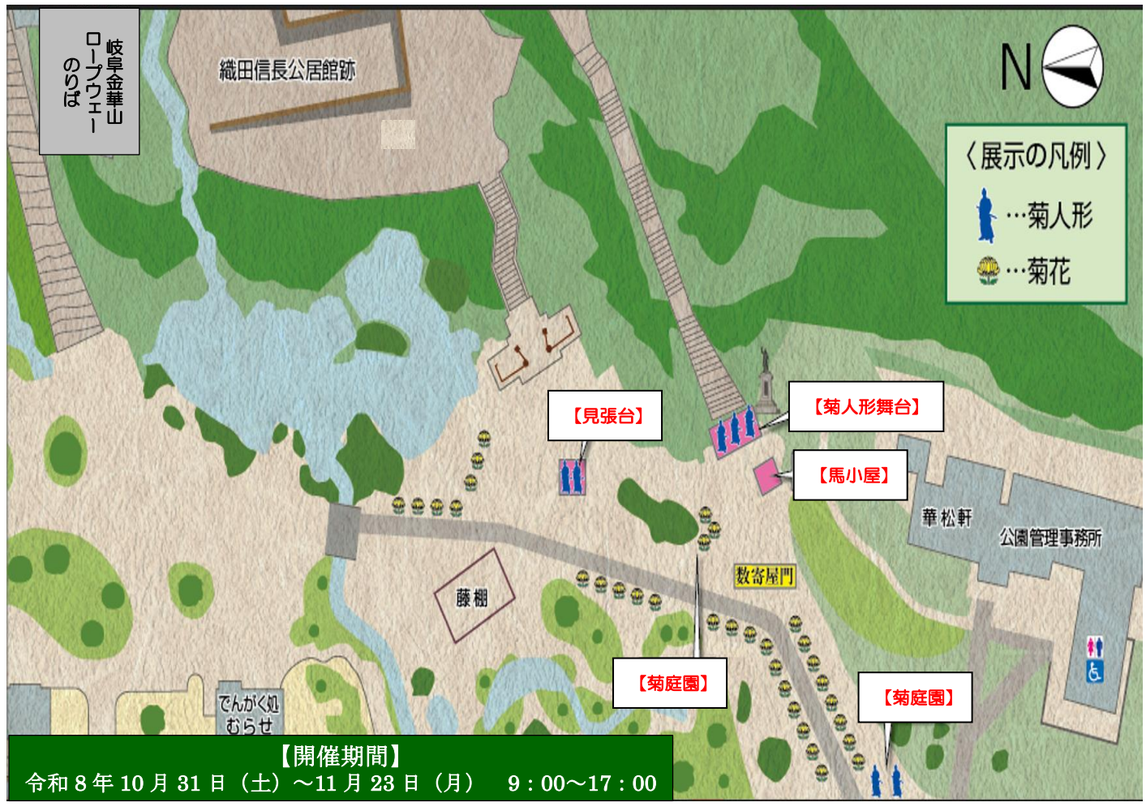
菊人形・菊花展案内図



戦国武将ゆかりの地　岐阜

岐阜でゆかりのある戦国武将と言えば数多くいるが、最も多く名前が挙がる人物は織田信長公であろう。永禄 10 年（1567)、妻濃姫の甥、斎藤龍興を追放し岐阜に入城した信長公は「井の口」と呼ばれていた地名を「岐阜」と改めるとともに天下布武を掲げ、天下取りに着手した。また、信長公は楽市楽座で経済を活性化させ、兵農分離では専門の戦闘集団を作り上げるなど、当時誰も思いつかなかった様々な政策を打ち出した。その後、天正４年（1576)、信長公は岐阜城を長男信忠に譲り、自らは安土城に移った。そして天正 10 年（1582)、本能寺の変で明智光秀公に討たれ、その波乱の生涯を閉じたのであった。

菊人形舞台テーマ

毎年、戦国時代の歴史の一幕が、美しい菊の衣装をまとった「菊人形」で華麗に再現されており、今年は、織田信長公が木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)と木下小一郎(後の豊臣秀長)の兄弟に、墨俣に砦を築かせ、稲葉山城(後の岐阜城)を攻略しようとする場面が、戦装束に身を包んだ菊人形で仕立てられています。

墨俣での築城にあたっては、藤吉郎が機転を利かせて、工事を進め、稲葉山城攻略に大きく貢献したという逸話が伝えられています。

山菊総合花壇

木付け、石付け等、５鉢以上の作品を組み合せ、一つの花壇として構成したもので、他の地方では見られず本菊花展の特色を表すものです。



千輪仕立て

１株でできるだけ多くの花を咲かせるよう仕立てます。100 輪以上咲かせたものを千輪仕立てと規定しているところもあります。



大菊花壇

大輪菊の三本立て 12 鉢もしくは、一本立ち 20 鉢をもって一つの花壇を構成したものです。



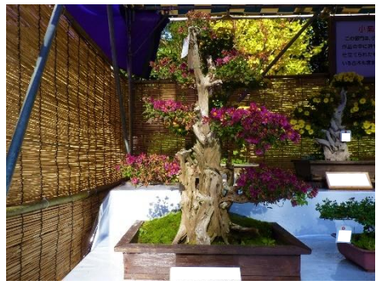
美濃菊

皇室の紋章である一文字菊を祖先に持ち、岐阜が発祥の地です。花弁の表裏の色が異なるものがあり、一種の荘重味と鮮やかさを持っています。



小菊盆養・盆栽

全国的にも珍しいこの地方特有の作風で、古木を主体にして小菊を育成しており、樹齢数十年を経て現在に咲き誇っているかのようです。小菊の特性を生かし、幹や根を強調し、盆栽風に仕立てており、数年栽培された古木も含まれます。





大菊小作り

７月頃に菊の芽差しを行い、比較的短期間に育成し花を楽しむもので、福助づくりが１鉢一本立てとして 10 鉢、だるまづくりは１鉢三本立てとして３鉢で一つの花壇を構成します。

福助づくり



だるまづくり



自由花

この部門は、作者が自由な発想に基づいて育成した菊花作品を展示したもので、出展にあたっては大菊、新花、古花等、規定はありません。

※今年度、出展のない部門も掲載しています。

菊の博学

・キク科キク属に含まれる宿根草で、学名をクリサンセマム・モリフォリウム(Chrysan-themum morifolium)といいます。日照時間の長い時期に成長して、日照時間が短く(13 時間以下)なるとつぼみをつけ開花する短日性植物です。
・菊の開花時期は一般的に 10 月下旬から 12 月中旬です。旬は 11 月上旬といわれており、秋を代表する花です。

菊の歴史

・菊の原産地は中国で 3,000 年以上の歴史があり、日本へは奈良時代中期に遣唐使などによって薬用植物（解熱、頭痛、めまい、長寿など）として入ってきたと言われています。
・平安時代には、9 月 9 日の重陽の宴で花を観賞し、赤白黄の綿を花にかけて菊酒を飲み、その綿で身体をぬぐう「着せ綿の行事」が行われていました。（老いを防ぐ効果があると考えられていました。）
・一般庶民に菊栽培が広がったのは、江戸時代中期の 1710 年代（正徳～享保）に花径 18 ㎝以上の大菊の新花を競う「菊合わせ」が盛んになった頃からです。入賞すると新花の苗 1 本が 3 両にもなったため一獲千金と名誉をかけて一般愛好家が交配実生に熱中し、次々と優れた品種が誕生しました。また、この時代に地域独特の古典菊も誕生し、江戸の植木屋が菊で富士山や名所の風景、菊人形などを作りはじめ、現在の菊作りの型がほとんど揃ったと言われています。
・明治 20 年代には、各地に菊花会ができ、大菊三本仕立て（盆養）が流行し、その華を競い始めました。懸崖や盆栽は大正初めに流行し、以後広く作られるようになりました。
・日本で大きく発展した菊は、明治以降、世界各地に運ばれ、品種改良がなされました。オランダではスプレー菊、アメリカでは鉢花用のポットマムが発達しました。

菊の種類

・大菊(和菊)：花の直径が 18 ㎝以上で、花型によって「厚物」、「管物」、「広物」に分かれます。「厚物」は、更に「厚物」、「厚走り」、「大掴み」に分かれ、「管物」は、管の大きさで「太管」、「間管」、「細管」、「針管」に分かれます。また、「広物」は一重咲きの「一文字」と八重咲きの「美濃菊」があります。
・古典菊(和菊)：江戸中期に各地の殿様の保護奨励によって地域独特の発展を遂げた菊の総称で、昔の地名で呼ばれています。その種類には、嵯峨菊、伊勢菊（松坂菊）、肥後菊、江戸菊、美濃菊、奥州菊などがあります。
・小菊(和菊)：花の直径が 9 ㎝未満で山菊と呼ばれることもありますが、懸崖仕立てや盆栽用に育成された小輪の菊です。花色、花型、生育の特徴など極めて多彩で、種類が豊富です。
・洋　菊　類：洋菊とは、欧米に渡った日本の菊がそれぞれの国の好みによって改良されたものの総称であり、クッションマム、ポットマム、スプレー菊などがあります。

菊の仕立て方

・大　　菊：三本仕立て、一本仕立て、七本仕立て、千輪作り、競技用切花、ダルマ作り、福助作りなど
・古　典　菊：ほうき作り、七五三作り、天地人作り、篠作り、肥後菊花壇など
・小　　菊：懸崖作り、杉作り、造形、ポットマム、クッションマム、盆栽作り、直幹仕立て、双幹仕立て、岩付け・木付け盆栽、盆栽懸崖、柳仕立て、筏吹き・根つながり、寄せ植え、木付けなど
・そ　の　他：弥彦作り、菊人形、総合花壇など

問合わせ先
岐阜市都市建設部公園整備課
〒500-8701　岐阜市司町 40 番地 1
TEL:(058)214-2184　FAX:(058)262-0512

岐阜公園管理事務所
〒500-8003　岐阜市大宮町 1 丁目 46 番地
TEL:(058)262-3951　FAX:(058)262-3951

第55回岐阜公園菊人形・菊花展

～戦国武将ゆかりの地　岐阜～

開催期間：令和 8 年 10 月 31 日(土)～11 月 23 日(月)
AM9:00～PM5:00(※開催期間中無休、無料)

菊の愛好家たちの力作や、小学校の児童の皆さんが丹精込めて育てた作品が展示され、秋の岐阜公園を鮮やかに彩ります。
また、戦国時代の歴史の一幕を、美しい菊の衣装をまとった菊人形で再現しており、歴史好きな方も楽しんでいただける展示となっています。



【会　　場】岐阜公園(岐阜市大宮町 1 丁目)
【駐　車　場】普通車：堤外駐車場 179 台、大宮町駐車場 50 台(310 円/回)
鏡岩緑地駐車場 370 台(無料)
バ　ス：大宮町駐車場 9 台(一回 1,040 円)･･･要事前予約
予約先（株)技研サービス　TEL (058)213-6188
【アクセス】ＪＲ岐阜駅または名鉄岐阜駅からバス 15 分
「岐阜公園・岐阜城」下車徒歩 1 分
※周辺駐車場は混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。